

平成25年4月26日

各 位

会 社 名 株式会社マネーパートナーズグループ
 代表者名 代表取締役社長 奥山 泰全
 (コード番号：8732 東証第二部)
 問合せ先 取締役CFO 中西 典彦
 (TEL. 03-4540-3804)

前年同期の実績値（連結・個別）との差異に関するお知らせ

平成25年3月期（平成24年4月1日～平成25年3月31日）の業績見通し（連結・個別）と前期実績との間に差異が生じたのでお知らせいたします。

記

1. 平成25年3月期連結業績見通しと前年同期の実績値との差異

(1) 連結

(単位：百万円)

	営業収益	純営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績 (A) (平成24年3月期)	7,671	7,513	549	527	337	円 銭 1,121.12
当期業績見通し (B) (平成25年3月期)	5,885	5,782	323	312	95	317.56
増減額 (B-A)	△1,785	△1,730	△225	△214	△242	—
増減率 (%)	△23.3%	△23.0%	△41.1%	△40.8%	△71.7%	—

(2) 個別

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績 (A) (平成24年3月期)	528	△16	△19	71	円 銭 236.09
当期業績見通し (B) (平成25年3月期)	550	61	43	31	105.38
増減額 (B-A)	21	77	63	△39	—
増減率 (%)	4.1%	—	—	△55.4%	—

2. 差異が生じた理由

(1) 連結

当期の外国為替市場は、期首から平成24年10月にかけて円高水準で相場が膠着し右肩下がりにボラティリティが低下する展開となったのち、平成24年12月の衆院選、政権交代やこれに伴う金融緩和期待等から期末にかけて急激に円安が進展する相場展開となりました。国内の外国為替証拠金取引全体の取引高は、平成25年1月以降のボラティリティ拡大に伴い取引高が大きく回復したことから前期比約19%増加いたしました。このような状況の中、当社グループは、前期末に実施したスプレッドの縮小の効果や取引ツールの強化をはじめとする様々な取組みにより外国為替証拠金取引の取引高の増加に努めた結果、当期の取引高は前期比約52%増加いたしました。一方、取引高当たり収益率は、スプレッドの縮小や平成25年1月以降のボラティリティ拡大に伴うカバーコストの増大等により取引高の増加割合以上に低下し、営業収益の当期見通しは前期実績を約23%下回る結果となりました。また、営業利益の当期見通しと前期実績との差異は、営業収益の減少の一方、取引関係費等の変動費を中心に販売費・一般管理費が減少したことによるものであり、経常利益及び当期純利益の差異も概ね同様の理由によるものであります。

(2) 個別

当社個別業績見通しと前期実績との差異の主な理由は、役員報酬や事務委託費をはじめとする販売費・一般管理費の削減によるものであります。

以 上